

食道がんにおける CRT 感受性試験 (SUCCESS 試験)

京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学講座 教授 武藤 学

対象疾患領域 消化器 / がん

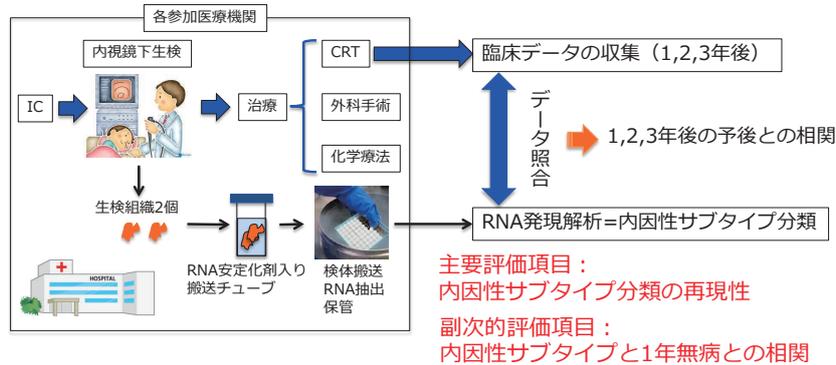
キーワード 食道がん / 内因性サブタイプ / RNA 発現解析 / 化学放射線療法 / 感受性試験

研究概要

食道癌は難治性がんのひとつであり、治療成績の改善が急務である。進行食道癌の治療は、侵襲の大きく異なる外科手術または化学放射線療法 (CRT) が選択可能であるが、現在の医療では、個々の患者にとってどの治療が最も効果が期待できるか、治療前に予測することは不可能である。手術の場合は、食道垂全摘出+胃管再建と侵襲が大きい。術前抗がん剤治療を加えることで CRT より高い治療効果が期待出来る。一方、CRT の場合は臓器および機能温存が可能というメリットがあるが、手術より治療成績が劣る。しかし、個々の症例において、手術で根治が期待できると判断されても術後に再発を繰り返す症例や CRT でも根治が難しいと思われても予想外に奏効し長期生存する症例もある。このような状況を繰り返すのではなく、今後の医療は個々の症例にあった医療、いわゆる Precision Cancer Medicine が求められ、治療前に最適な治療が選択できれば、患者のみならず医療経済的にもその意義は極めて高い。

本研究では、内視鏡下に生検した食道癌組織の遺伝子発現をプロファイリングし、その結果に基づき食道癌の内因性サブタイプ分類を行うことを主たる目的とする。さらに、サブタイプに分類した患者群の、化学放射線療法、外科治療に対する治療効果を検討し、より根治性の高い Precision Cancer Medicine を実現するための革新的バイオマーカー開発を目指す。

SUCCESS試験の流れ



実用化例

この診断技術が確立すれば、治療前組織の遺伝子発現プロファイリングより判明した内因性サブタイプから CRT で根治が期待できる患者群とそうでない患者群を判別できるため、治療方針の決定に重要な情報の一つとなる。患者にとってもより効果の期待できる治療法を受けることが可能となるとともに無駄な治療を回避でき、その後の QOL の向上等が期待される。

特許情報

・ WO2016/047688

医薬品

医療機器

体外診断薬

再生医療等製品